

理科大跡地利用は環境を守って



レッドウッド 類似の物流施設

東京理科大跡地の6割部分の開発に伴う地区計画が出されました。マルチ型の物流倉庫(地上4階、延床面積155,600㎡、高さ31m)が、平成29年夏前から着手、約16

ヶ月の工事期間で完成予定です。この物流倉庫の建設に対して「運搬車両台数は」との問いに、「類似施設から推計して1日150~230台程度」としています。交通量は増大し静かな環境が一変します。今でも川越栗橋線は交通渋滞がひどく交通公害が増大することは必至です。通学路に信号機設置、側溝のふたかけなど地域からの要求を真っ先に進めるべきです。給食センターの建設も含め、久喜市の今後がかかった事業が市民の知らぬ間に進められていい訳がありません。

昨年、JA久喜総合病院が民間病院に売却され「24時間365日断らない病院」が出現。救急車の搬送先が結果として偏り、地域医療連携が

的助成の適用にしたい。救急センターの活用も含め、具体的な財政案が出されて始めて検討できる。それを示してほしいと提起し、次回提出されることになりました。



済生会栗橋病院は現地で病棟建替えを

大きく変化する中「済生会栗橋病院が加須市へ移転」の覚書が明らかとなりました。現在「白紙撤回」を求める市民の声や議会決議をうけ「済生会栗橋病院あり方検討委員会」が設置され、3月末を目途に審議中です。

あり方検討委員会では

済生会から病院のあり方が示されました。概要は新病棟(病院)を建設する。新病院は高度急性期を、現病棟は慢性期を担い医療機能を分け連携を図る。再整備の費用は公

この案を受け加須市は、30億円の財政支援と土地を確保し議会の同意も得た。高度急性期・慢性期の機能移転にも賛成と表明。

久喜市の意向は

現地にての新病棟建替えを希望している。現在地で救急救命センターの活用も含め、具体的な財政案が出されて始めて検討できる。それを示してほしいと提起し、次回提出されることになりました。

現地で新病棟を建設し

地域医療継続を

旧栗橋町が誘致し、市民とともに28年間困難を乗り越えて来た済生会栗橋病院です。委員から「機能分化は患者にとっても好ましくない」との意見も出されています。現地での建替えを第一に検討すべきです。

医師がいなければ

数億円をかけ建設した救急センターも医師確保が出来ず稼働していません。国は「医師を増やすと医療費が増加する」として医師増を抑えています。「医師を増やすべき」この声を上げるのが重要です。

住民要求実現で住みよい久喜市を 日本共産党久喜市議団

栗橋関所復元し地域振興を



栗橋関所は、東海道の箱根関所と同等の知名度を持つ日光街道唯一の関所。名高い栗橋関所を体験型の観光施設として復元すべき。虎綱を張り利根川に船を並べ、板の上を敷いて日光社参をした。「房川渡しを示すプレート」もある。案内板設置をとの間に、市は一つのポイントを作ることで交流人口の増加が期待できる。総合戦略を策定しているが関所の復元は入っていない。房川渡しの案内板設置は考えないとの答弁でした。諦めずがんばります。石田としはる

公立中央・栗橋幼稚園の保育環境充実を



公立幼稚園2園は、新制度へ移行し料金が大幅値上げとなり入園児が減りました。来年度の体制も心配です。私立子ども園に比べ、延長保育・園バス(中央のみ)・給食・3歳児保育がありません。早急の改善を訴えてきました。来年から、中央幼稚園では延長保育に取り組みめる努力をしています。特に3歳児保育は要求が多いので強く要求したところ、課題を検証し、検討するとの答弁でした。渡辺まさよ

デマンドバスの改善・拡張を要望



デマンド交通の年間利用人数は、菖蒲地区4051人、栗橋・鷺宮地区1万458人となっています。菖蒲地区の方から「久喜地区の施設、市役所本庁、新久喜総合病院、文化会館などへ直接行きたい」と声が上がると、多くの市民から要望が上がっています。更に久喜地区での運行も検討すべきと考え質問しました。「民間交通事業者に影響を与えるので運行は考えていない」との答弁です。今後も要望していきます。へいま益美

自校給食に優るものはない



市は、理科大の跡地に市内全小学校の給食を作る給食センターを作ろうとしています。給食審議会にも諮らず、市民の合意などありません。これでいいのか。県内でも、さいたま市、春日部市、草加市など多くの市がセンター方式から自校方式に転換をしています。「温かい食事を子どもたちに届けたい」この思いが共通しています。各校が災害時に食事が提供できる避難所となるなど、その他にもメリットもいっぱいあります。計画的に少しずつでも進めていきましょう。杉野おさむ